

# 新 不 動 心

平成 25 年 12 月

第 34 号

発行 普照院



皆さん、突然ですが『極楽浄土』とは、どこにあるのでしょうか。そして、いつそこに行くのでしょうか。そのような疑問をお持ちになったことはありませんか？

極楽浄土へ行くことを、我々の宗旨・時宗では、『極楽往生(おうじょう)』と言います。行くというよりも、生まれ変わるといふ表現なのです。時宗を含め仏教徒にとっての『死』は、ゴールではなくあくまでも通過点です。また「因縁善果(いんねんぜんが)」という言葉がありますが、我々人間は前世からの因縁を背負ってこの世に生まれてきます。そして今度はこの

現世での因果を持って次の来世(何に生まれ変わるかは分かりませんが)、時宗を含め浄土門系の仏教徒はすでにこの因縁の世界(六道輪廻)に生まれ変わるのではなく、先に逝かれた方々が待っておられる極楽世界へ行くことになっています。

それを信じるか信じないかはさておき、宗教における来世での救いは、ほぼ全世界の宗教に共通した概念です。「○○の宗教を信じれば、あなたは必ず今現在では幸せになれるが、死んだらその魂など何も残らず消えて無くなるだけです。」という教えの宗教は、私は今まで見たことも聞いたこともありません。

「宗教を信じない、魂など存在しない。」と公言していた方がお亡くなりになっても、残された人々の心の中には、必ずその亡くなった方への『思い』が残ります。本来、宗教の存在意義とはその「思い」のためにあることに気づくことができた方の心の中に、我々で言うところの『極楽浄土』の世界があり、そこに最愛の方が到達するのだといつも感じます。今年も無事年末を向かえることができたことに感謝致しましょう。

合掌



歳末・お正月には、菩提寺のご本尊様とご先祖様へ感謝とご挨拶のために、お寺・お墓へ家族そろってお詣り下さい。

## 住職よりお墓のついて一言】

今年の11月中旬のある朝刊の一面に、「両陛下 葬法は火葬に」というものがありました。天皇家の方が亡くなると神話の時代は土葬、仏教伝来後から火葬、江戸期に入るとまた土葬に戻って（一部例外もあります）現在に至ります。特に私たちは、今回のことでその葬法を両陛下自身がお元気な時に、きっちりと指示されたことを見習わなければなりません。

昨今は少子化の影響で明らかにお墓を整理しなければならないお家が、全体の半分を占めるようになってきました。お辛いことですが苗字が絶えてしまうお家は、いつかお家のお墓を整理しなければなりません。しかしそれを娘さんなどに全て暗黙の了解として託してしまうのは、あまりにも無責任な話だと私は思います。

この度の両陛下のように、自分たちがまだ**健康な時に**その希望を子供たちにしっかりと伝える機会を持っていただきたいと思います。本来は、そのお墓を守る最後の同じ苗字の方が整理するべきなのですが、心情的にも難しい場合もあるかと思えます。そういう場合は〇回忌までなど、お寺にも相談して期限を決めておくのが賢明です。

### 【平成26年のお寺行事（3月まで）】\*4月以降は次号にてご案内させていただきます。

| 月  | 日    | 行事                       | 内容   |
|----|------|--------------------------|--|
| 1月 | 1~3日 | 修正会                      | お正月の初詣の帰りには、是非ご先祖様にも新年のご挨拶にお寺へお越し下さい。              |
| 2月 | 15日  | 涅槃会・*浄焚供養<br>(本年より非公開行事) | お釈迦様の遺徳をしのびつつ、涅槃会とあわせて <b>お焚き上げ供養(*16日)</b> を行います。 |
| 3月 | 21日  | 春彼岸墓参                    | 午前中、舞子墓園普照院墓地にて。                                   |
|    | 24日  | 春彼岸塔婆供養会                 | 午後2時より、本堂にて。                                       |

★変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

**\*今年から涅槃会・浄焚式は非公開とさせていただきますが、お焚き上げ供養(16日)は例年通り行いますので、お家にお供養するものがございましたらご連絡下さい。**

#### 〔編集後記〕

今回は墓所の件でページを割いた為に、4ページとなりました。ところで、現在当寺院墓園がある舞子墓園は、他の霊園墓地に比べ大変人気の高い墓所になっています。昭和26年開園当時をご存知の方からすると、この60数年後の変化は想像も出来なかったことだと思います。これからも当寺院墓地が未来永劫存続できるよう、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様にはお体にくれぐれもご自愛いただき、良いお年を迎えられますよう祈念申し上げます。

合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>

● facebook ページ『普照院』、随時投稿中です。 



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

